

令和5年度ケアマネジメント調整会議の実施報告について

大野城市ケアマネジメント調整会議

- ・ 事例検討件数2件/回(1件あたり40分前後)、R5: 19回/年
- ・ H28事業開始 R5までに延198件 事例検討
- ・ PT、OT、ST、歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士、薬剤師、主任ケアマネ
- ・ 地域包括支援センター(基幹・地区)、事務局(保険者)

個別課題をカテゴリ別に分類

栄養・食事/口腔/リハビリ・機能向上/外出/買い物 /活動・生きがい/集いの場/介護予防・生活改善/家族支援/権利擁護/医療・介護連携/疾病/認知症/薬剤/サービス不足/その他

ケアマネジメント調整会議助言者連絡会

- ・ 年に1回開催
- ・ 助言者、地域包括支援センター、事務局が出席

目的

- 助言者、事例提供者、司会者の資質向上のための研修
- 地域課題の抽出

⇒ 課題の優先度、課題の原因・対応策などを整理する

R6.1.26実施

R6.3.8実施

介護保険運営協議会

地域課題を諮り、
政策への提言に繋げる

令和6年1月26日助言者連絡会で意見交換した内容を、令和6年3月8日に開催された令和5年度第5回大野城市介護保険運営協議会にて報告しました。今後は、これらの課題解決に向けて、各関係機関と検討を進めていく予定です。

優先的に取り組むべき内容について(意見交換)～抜粋～

リハビリ・機能向上

・リハ職を含む医療職は、機能向上としての目標設定になってしまうが、介護は生活に密着した目標設定になる。リハ職とケアマネジャーがいっしょにアセスメントし、目標設定をするしきみがあるといふ。(生活につなげて、歩く目標を作るなど。)

栄養・食事(男性への栄養指導)

・仕事をやめてまだ元気なうちに調理方法の指導などを行うのがよい。簡単なレシピを教えることも、適切に栄養管理を行う方法の1つだと思う。
・コンビニの食品を悪とする風潮があるが、コンビニ食品の選び方次第で正しく栄養管理を行い、コンビニ商品を活用することができると思う。そのような食品の選び方の指導を行うのもよいかもしれない。

薬剤

・かかりつけの病院と同じようにかかりつけの薬局も持てるように薬剤師から呼びかけを行っているが、なかなか難しい。継続して周知していきたい。
・薬局とケアマネジャーがもっと連携をとれるようにして、服薬管理を徹底して行えたらよいと思う。

活動・生きがい

・高齢者の方への一番の自立支援は就労の場を与えてあげることだと思う。金銭の問題から本人の希望やニーズと本人が利用できるサービスとの間にギャップがあるという事例が多い。就労の場に参加することで社会参加になり、お金を稼ぐこともできるので本人の生きがいにつながると思う。